

令和3年度第1回

寒川町総合教育会議会議録

日 時：令和3年5月20日（木）
午後3時00分 ～ 午後4時48分（108分）

場 所：東分庁舎第3会議室

<出席者>

- 1 木 村 俊 雄（寒川町長）
- 2 大 澤 文 雄（寒川町教育委員会教育長）
- 3 大 川 勝 徳（寒川町教育委員会教育長職務代理者）
- 4 小 川 雅 子（寒川町教育委員会委員）
- 5 大 関 博 之（寒川町教育委員会委員）
- 6 布 谷 あけみ（寒川町教育委員会委員）

<事務局職員>

企画部長	深 澤 文 武
教育次長	内 田 武 秀
教育政策課長	高 橋 陽 一
学校教育課長	小 島 康 義
教育政策課専任主幹	黄 木 悟
（兼）学校教育課専任主幹	
書記	尾 畑 浩 司

令和３年度第１回寒川町総合教育会議 次第

１ 開 会

２ 議事録承認委員の指名 布谷 委員

３ 協議

(1) 寒川町教育大綱（改定版）（案）について

(2) 第２次寒川町教育振興基本計画（案）について

４ その他

５ 閉会

1 開 会

(木村町長)

皆さんこんにちは。教育委員の皆さんにおかれましては、前段から大変お忙しいかつお疲れのところお集まりいただきまして大変ありがとうございます。令和3年度になって初めてというか、第1回目の寒川町総合教育会議でございます。これから開催をするわけでございますけれども、本年3月に予定しておりました本会議がご存じのようにコロナウイルス禍の影響もあってのびのびとなってしまうしました。様々な事業も中止、あるいは延期というよりも中止のほうですね、書面会議という形をとったりしております。しかしながら、この会議ばかりは書面会議というわけにはいきません。直に皆様のお考えを伺いながら内容的に詰めていきたいと思っております。今回、布谷委員さんをお迎えしての初の会議、総合教育会議でございます。どうぞよろしくお願いをいたします。

(布谷委員)

お願いいたします。

(木村町長)

ご存じのように今、社会背景としては様々な部分、人口減少はもとより、核家族あるいは少子化という当たり前の状況が大きな課題であり、それが現在進行中であります。そういった中で、これからの教育の在り方とか、学校の意義付け、また様々な学校教育、社会教育、家庭教育というような教育の在り方等について皆さんのお考えもあろうかと思えます。特に教育の在り方については、これからの社会を担う子どもたちの生き抜く力を育てていくとともに、やはり生涯にわたっての様々な分野で役割や能力を発揮してもらう未来の子どもたちを育て上げていくという非常に大きな命題があるわけであります。そういった部分で教育の担う責任の範囲というのはまさに人間をつくっていく非常に大きな部分でして、子どもたちもそれぞれの様々な能力、あるいは性格も異なりますけれども、それぞれの個性を生かした教育が、従来の一辺倒ではない、その子どもにあった教育のやり方、仕方というか、それも当然ながら進めていかななくてはいけない。そういった力を養う場だと思っております。

また、学校においても情報化社会とグローバル化の進展に適応する能力を養う場でもあってほしいと思っております。単に授業を消化するのではなくて、その授業を受ける、あるいは様々な知識、新しい知識を身につける中で、子どもたちに新しい部分のその子の持っている個性をいかに発揮することが可能なのか。当然これは場所というスペースだけの問題ではなくて、教える側、教師の資質も当然ながら重要となってまいります。従来どおりという話ではなくて、これからどういう教育を進めていくかというのが大きな命題というふうに思っています。

そういった中で後ほど後段では教育振興基本計画の案も協議事項に入っております。その中でまた細かくお話が出ようかと思しますので、あまり前段が長くなってしまうと時間ばかり経過して物事の肝心なことが進みませんので、早速でございませけれども本題に入っていきたいと思ひます。

2 議事録承認委員の指名

(木村町長)

お手元の次第の2点目にありますけれども、議事録承認委員の指名ということで、大変恐縮ではございますけれども、従来名簿順というのが一つの流れもありまして、今回は布谷委員にお願いしたいと思ひます。よろしいでしょうか。

(布谷委員)

はい。

(木村町長)

皆さんもよろしいですか。

<はいの声>

(木村町長)

それではよろしくお願ひいたします。

3 協議

(木村町長)

それでは3点目、本題の協議事項に入りたいと思ひます。

この会議の前段の定例会もございましたので、あまり長々というわけにいきませんけれども、おおむね午後5時までには終了したいと思ひてございます。よろしいでしょうか。お願ひいたします。

では、最初に寒川町教育大綱(改訂版)の(案)について、1点目の協議事項といたしております。この教育大綱でございませけれども、寒川町が活力と豊かさに満ち、持続可能なまちづくりを進めていくためには次代を担う、文字どおり子どもたちの健やかな成長が大変重要であります。そういったことから、私は町政運営の指針としての令和3年度の施政方針においても今年度新たな教育元年と位置づけまして、外国語、主に英語になりますけれども、外国語によるコミュニケーション能力、また情報活用能力の育成を図るという大きな2点から子どもたちの成長にいかに支援できるか。コロナ禍という社会的な背景の中で、急速に進むICT技術の普及、それに伴って拡大するグローバル社会の中でも生き抜いていく力を育む特色ある教育の振

興を進めていくこととしております。これは別に他に先駆けてとか、奇をてらったわけではないのですが、寒川町としては教育のある意味、特性を今年度から進めていきたいと考えております。

これに伴って策定から5年が経過し、子どもたちを取り巻く環境も大きく変わっていることから、寒川町の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定める、これが本来の大綱の趣旨であります。その目標や施策の根本となる方針でございますから、現在、そういった意味で現行の教育大綱の改定が私としても必要ではないかと考えておりまして、本日の協議事項とさせていただきます。

教育大綱は町長が策定するとはなっておりますけれども、そのためにはこの会議において皆さんと協議、調整してつくり上げていきたいと思っております。

ではこれより、まず教育大綱（改訂版）（案）について事務局、事務担当から説明をしてもらいます。その上で、それを受けて皆様からご意見、お考えなどをいただきながら議論を進めていきたいと思っておりますので、まず担当より説明をお願いいたします。

（教育政策課長）

それではお手元の寒川町教育大綱（案）の資料がありますけれども、その表紙をおめくりいただきまして、前文をご覧くださいと思います。

前文については、教育大綱を策定するにあたっての考え方を述べているものとなりますけれども、この部分につきましては現行のままといまして、ただ期間としては町長の任期に合わせまして、今回の改定から令和5年度までとしたいと考えております。

1枚おめくりください。次に教育大綱の改定案でございます。こちらについてはこれまでは今ご覧いただいている本体での大綱と、その内容をより詳細に記載した解説版とで構成が異なっておりまして、そういった意味で、いろんな意味で分かりにくい部分があったということから、今回の改定では主にそうした部分でも改善を図っております。

それでは大綱本体及び解説版の改定案について、柱立てとしては学校教育と社会教育と分かれておりますので、まず学校教育の部分から学校教育課長からご説明をさせていただきます。

（学校教育課長）

それでは教育大綱の学校教育に関わる部分について説明をさせていただきます。今お手元に赤い字の入った1、2、3と学校教育と書かれているものがこの改定案で、その次の紙は従来のものとなっております。新旧比較して見ていただけるとよろしいかと思います。

これまでの教育大綱の学校教育に関わる部分は5項目ありました。この度、生きる力とされている知、徳、体を中心に項目内容を整理し、3項目にするこ

とを考えております。1項目目が知を表し、2項目目が徳と体を表し、3項目目は児童生徒が安心して成長できる学校教育環境整備といたします。

それでは各項目の解説について説明をさせていただきます。2枚めくっていただきますと教育大綱を実現するために（案）とあります。そちらのほうをご覧ください。

まず最初に「確かな学力を身につけた児童生徒を育てます」です。町総合計画に位置づけられたグローバル教育推進事業に関わるもので、外国人指導者の全校常駐配置に伴う英語力をはじめとしたグローバル社会を生き抜く資質、能力の育成、ICT教育の充実を通して情報活用能力をはじめとする学力の向上を考えております。また、主体的、対話的で深い学びの視点に立った授業改善、少人数学習を通じたきめ細やかな指導、小学校高学年の教科担任制の実現に向けた取組等を挙げております。

続いて2番、「豊かな心と健やかな体を持つ児童生徒を育てます」です。ここでは道德教育を通じた規範意識を持った児童生徒の育成、体験活動を通じた心豊かな児童生徒の育成、いじめのない集団づくり等を内容と考えております。

最後に裏面をめくっていただきまして3番、「児童生徒が安心して成長できる学校教育環境を整備します」です。新しい学習指導要領でも強く求められている教育の資質の向上と学習成果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントの推進、学校運営協議会制度、コミュニティースクールの導入を通じた地域に開かれた教育の推進、施設の整備、ICT環境の整備を挙げております。

以上が教育大綱の学校教育に関わる部分となります。

（教育政策課長）

続きまして社会教育の分野についてご説明をさせていただきます。社会教育については教育大綱本体については現行のものと同様の内容となっております。その解説版につきましては、教育大綱を実現するためという資料の2ページ目、裏面になりますけれどもご覧いただきたいと思います。こちらは現状を踏まえての時点修正を行っております。

まず1点目の「身近で親しみやすい魅力ある学びの場をつくります」につきましては、家庭教育について第一義的には家庭教育の責任については保護者が有するものの、核家族化等の影響で親族等からの支援が希薄となっていることなども鑑みまして、地域として支える環境づくりを推進するとともに、子どもたちの豊かな心を育むために地域での体験活動ですとか、読書活動の機会の確保について記載をしております。

また3丸目と一番下の7丸目では、共に学び絆を深めていけるように、生涯を通じた学びや活躍できる環境整備を図るとともに、4つ目の丸にあるようにこうした学びが暮らしの向上だけでなく、社会の持続的発展にもつながるように推進してまいりたいと考えております。

次に、大きな2つ目の「社会教育施設を整備します」につきましては、地域

の拠点となる社会教育施設について、ハード的な部分での環境整備についても掲げているといった内容になります。

以上で学校教育、社会教育の教育大綱についての事務局からのご説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(木村町長)

説明が終わりました。今回の大綱の改訂版(案)については、先ほど申し上げたように教育大綱の本来の目的について私から述べました。教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策についての目標や施策の根本となる方針を定めるという部分がございます。従前というか、現状の大綱についてはかなり具体的な表現もあって、その辺の言葉の使い方がどうなのかということもございまして、それが1点。そしてより分かりやすい内容とする部分も非常に重要視してございます。この教育大綱というのは我々とか成人だけが理解できるものではなくて、子どもたちも理解してもらいたい。小学生の低学年はちょっと難しいかもしれませんが、高学年、あるいは中学生も十分理解できる言葉を求めて今回の改定の内容としていただきました。

また寒川町の総合計画がございます。これは全体のまちづくり計画ですが、その総合計画2040における町の将来像、これも「つながる力で新化するまち」という将来テーマを掲げてございます。そういった総合計画との整合を図る形で時点修正を行っていきたいと思っております。

ただいま担当より説明しましたが、委員の皆さんからご意見、あるいはお考えなどをご発言願えればと思っております。それでは、大川さんからよろしくお願いいたします。

(大川委員)

よろしくお願いいたします。

まず今回のこの教育大綱案、非常にすっきり整理されていて教育全般に大きく網がかけられている、素晴らしいと思います。いいものができた后感心しているところです。

今、町長からもお話がありましたように、これからの社会は今よりもグローバル化が進んで、いろんな様々な国の人、あるいはいろいろな民族の人達と一緒に活動する、そういう社会になっているのではないかと思います。また、今以上に予測が困難な時代になっています。その中で生きていくということが求められます。ですから寒川の子どもたちには、その社会で人々から好かれて、信頼されて、はつらつと活動する、そのような人間に育ってほしいと思います。そのためにも、ここに書いてあるような中身、大綱の言葉というのはそれを具体化をしていくということをきちんと行っていけばものすごくいいものができるのではないかと思います。そして最終的にいろいろなものがあるかと思いますが、今テレビで渋沢栄一の大河ドラマをやっていますよね。ああいう人間が1人でも多く育ってほしい。論語とそろばんですか、

道徳と経済の両立を考えて行動できる人間、今の言葉でいうとSDGsがあります。あれは国際版だと思っていますが、持続可能な開発目標の実現に向けて努力する、目指して頑張るという、そういう人間になってほしいと思っています。そういう人間を1人でも多く育てるためには、やはりこの「教育大綱を実現するために」にあるようなところがすごく大切になってくると思っています。人生は積み重ねることによって花開く、そういうものであると思っていますが、一つひとつの事業が寒川の子どもたちが未来の世界で花を咲かせるためのバージョンアップにつながっていくと思っています。そういう意味でいろいろなことを大切にしていきたいと思っています。

あと、今は学校教育のことについて少しお話しましたが、社会教育のほうも非常に大切なものを持っていると思っています。例えば今、公民館でここ数年、新たなサークルが毎年つくられています。この新たなサークルをつくるための支援も行われていて非常に素晴らしいと思っていますが、このサークルをやっている人が今度は学校にコミュニティースクールか何かのときに呼ばれて講師となり、寒川の子どもたちを成長させてくれると思います。言葉を伝えていくというか、活動の目安を与えてくれる。そのような意志循環型の教育が寒川で今芽生えているのではないかと私は今とても期待しているところであります。そういう意味でこれからもいろいろな支援をぜひお願いしたいと思います。以上であります。

(木村町長)

ありがとうございます。大関委員、お願いします。

(大関委員)

はい。大川さんのように言葉としてはちょっと言えませんが、自分なりの考えで話をしていきたいと思います。

前回の大綱を何年か前に決めたときは、私も参加していましたが、どちらかというと単発で分かりやすく、誰が見ても一発で分かるようにということで、このような形になったと思います。今回は本当にどちらかというとすっきりして、先ほど冒頭に町長が言われてたような思いが全て詰め込まれている内容に仕上がったのではないかと考えております。

また、事務局のほうから、つくっていく過程の話をいろいろ聞かせていただいたのですが、その中でも思いが全て詰め込まれて、また考え次第ではこういうふうに分けるというちょっと余白が残りつつやっていけると思いますので、とても素晴らしい大綱になったのではないかと自分自身は思っております。以上になります。

(木村町長)

ありがとうございます。はい。小川委員。

(小川委員)

はい。私たちが月に1回、ここでいろいろ定例会のときに言葉にすることは非常に簡単なのですが、やはりそれを網羅して文章に起こすというのは大変な作業だと思います。特にこれを今度新しくつくるにあたって、Society 4.0の世界を生きてきた私たちが、これから5.0の入り口に立つてできることといえば、今現在分かっていること、それから将来予測されること、そして子どもたちがこんなふうに育ってもらいたいという願いというか希望を加えた、そういった内容ができたのではないかと考えております。これが未来の進むべき道を照らす道しるべになってもらいたいということです。

特に町長が先ほどおっしゃったように、子どもが理解できるというフレーズがありましたけれども、子どもに理解してもらうために大人は自信をもってそれを推進していくということも大事と考えております。人の価値観とか人生観というのは思春期から二十歳ぐらいの間に出来上がるということをアメリカの社会学者の有名な方が提唱しておりますけれども、そういった意味では私たちの時代では考えられなかった思考が今は当たり前になっていくというのが次々新たになって塗り替えられていっている時代だと思います。そうするとこれからも、今、そうかそこまでそうだなと思ったことがこれからもまた変化していくことがあると思います。ですから、価値観とか世界観というのは私たちにはある程度出来上がってはいますが、人間というのはそれでもその時代に合わせて修正しようという能力もありますので、都度真摯に事象が起こったときには受け止め、考え、寄り添って進めていくことが肝要と考えております。

そして今月、畠山選手がBMXでイタリアの国際大会で日本人初の表彰台上ったということで、スタート台の練習台もできていますし、FLTの常駐配置という画期的なこともしておりますので、こうやって若い人の成長、子どもたちの成長を見守れる町というのは大人が充実していないとなかなかできることではないと思いますので、大人がちゃんと充実して暮らせている町というような勢いを感じるということも思いました。以上です。

(木村町長)

はい。ありがとうございます。布谷委員、よろしいでしょうか。

(布谷委員)

はい。新たに教育委員という立場に置かれまして、改めて今まで私がいて、見てきたのは本当に一部、学校教育の畑だけだったと感じました。こういういろいろな会議の中で社会教育や、もっとさらに一番の大元のこういう目標、教育大綱というようなものに触れさせていただく、お勉強させていただくというのは本当にありがたいことですし、責任もすごく感じているところです。

先ほど、町長さんもおっしゃったように教育はやはり人間づくりだと思うのです。そして今の人間づくり何が大事かといったら持続可能な社会の創り手、創造の創を使う創り手づくりと、担い手づくりだと思います。ですから、その

部分をやはり基盤に持った、そしてその上に成り立ったこの教育大綱これを具体的に進めるということがすごく大事ですし、こうやって本当に端的に整理していただいたのを見ますと、よりしっかりした形で取り組んでいけるのではないかというふうに思いました。

まだまだちょっと勉強不足ですが、いろいろと勉強させていただく中でいろいろ意見とか言えたらいいと思います。

(木村町長)

ありがとうございました。4人の委員さんからのお考えもいただきました。これらを受けまして、教育長としてどのようなお考えなのかご発言をお願いしたいと思います。

(大澤教育長)

教育委員の皆さん、いろんなご意見等ありがとうございました。それではこれまでの教育大綱について若干振り返りながら、改訂版についても触れていきたいと思います。

まず子どもたちは町の宝であり、教育は子どもの可能性広がる未来へ向けて町を挙げて取り組む夢のある営みです。また町民の学びたいを行動にできる町を目指すことは大変重要なことです。このことは現在の教育大綱の前文に書かれていることであり、まさにこうした考えのもと教育大綱本体は策定されるべきだと考えております。これまでの教育大綱は、平成28年に初めての策定ということで手探りの中でこの総合教育会議を3回開いて検討を重ねながら策定したものです。策定から5年が経過し、現在は子どもたちをはじめとする町民の取り巻く環境も大きく変わっています。そうした時代の変化に応じて、寒川町の教育等に関する根本的な方針を定める教育大綱を改定することは必要であると思っております。

町には寒川町総合計画、教育大綱、寒川町教育振興基本計画、寒川学びプランといった様々な教育関連の計画等があります。これらの計画とうまく関連させていかなければ教育行政を円滑に進めていくことはできないと考えます。市町村によっては教育振興基本計画を教育大綱にしているところもあるぐらい教育大綱と教育振興基本計画は密接なつながりがあります。現在、教育振興基本計画について策定中ですが、そういった意味でこの案の内容についても整合性が図られていると思います。

教育大綱においては先ほども述べられておりますように、大きな方針を示すとともに、メリハリのある寒川らしいものにして、寒川の教育は今後このようなことを目指すということを示すべきだと思います。また、町民の皆さんに町の教育が目指すところを分かりやすく示したものでなければなりません。これまでの教育大綱としては、当時の時代背景からいじめをなくします、やスポーツを盛り上げますといった具体的な文言が入っていましたが、今回の改定で解説編との整合性を図るとともに、大きな方針を示すこととしています。そして

具体的な内容は解説編に盛り込み、教育大綱と解説編との関連や役割がさらに明確になりました。義務教育では全ての児童生徒に確かな学力をつけ、道徳心を育て、健やかな体づくりを進めるといった幅広く調和の取れた展開が必要となります。そのために私たちは今日的に必要な理念と施策をきちんと示す必要がありますが、今回の教育大綱（案）の内容は精選され、簡潔な表現できちんと網羅されていると思います。

学校教育については知、徳、体といった教育が不易なものとして追い求めなければならない力が、確かな学力、豊かな心、健やかな体という文言で示され、それらを育む上での教育環境整備についても網羅されています。さらに解説編では、具体的にその手立てを示しています。その中には少人数教育やいじめ根絶に向けた道徳教育などの充実、教職員の資質向上のための研究、研修の充実など、今後も継続して取り組むべきものがあります。加えてグローバル社会を生き抜くための外国語教育や、ICT教育、中学校完全給食、主体的、対話的で深い学びの視点による授業改善、そして県内で先進的に取り組んでいる小学校教科担任制やコミュニティースクールなどといった今日的に必要な取組も網羅しています。

社会教育については、地域の視点をさらに盛り込むとともに人生100年時代や持続的発展、多様な世代といった今日的な課題に応じた取組を網羅しています。4人に1人がシニア層になってくるため、そういう人たちの活躍する場を考えていくことも大事なことでありますが、少子化という点からも多様な世代の学びを支えるという考え方は大変よいものだと思います。町民が社会教育活動の拠点として公民館、あるいは町民センター、総合図書館等が集まって活動しているので、これでいいと考えます。一方でときには町民が主体的に自分たちで学びを考えていく、そのようなことも必要かもしれません。

全体として事務局で十分に文言等について検討に検討を重ねさせていただきました。そのため、この大綱そのものが精選され、すっきりとした形でまとまっています。文言も含めてさらに分かりやすいものになったと思っています。教育大綱は未来を切り開き、生き生きと活動する子どもたちをしっかりと育てていく、学ぶ人をもっと応援していくとの宣言でもあります。今後は新たな教育大綱を、町、教育委員会、学校、地域などが一体となって実行に移していくことが大切になってくるのではないかと考えております。以上でございます。

（木村町長）

議会答弁じゃありませんから、もう少し要約で結構でございます。

いずれにいたしましても教育大綱と大綱を実現するための内容はセットであります。これ町長が定めたのではないのか、と言われると、私の責任も非常に重くなってくるし、ある意味、教育大綱に位置づけられていますと言われてしまうと、これはやはり予算的対応をしなければいけなくなってくる。かなり厳しい状況にもなり得る。今日は教育政策課長もいますけれども、そういう中で

もやはり、何ゆえに教育大綱の必要性、教育の必要性というのはやはり、子どもたち、児童生徒を育てることで、人間形成の場でもありますから、これ学校だけじゃないです。だから社会教育もありましたけれども、家庭教育、このあとの計画の中でも案で出ますけれども、やはりその辺がある意味三位一体じゃないですけれども、学校、家庭、そして地域というこの連携が強まることがやはり子どもを取り巻く、子どもたちも自分は地域、周りに育てられているというような認識を感じてもらえるような在り方がぜひ、これから特にきめ細やかなという言葉もありますし、ぜひお願いしたいと思っています。

よく知、徳、体という3つの言葉、学校で外壁にも書かれている学校もありますけれども、とはいえこれからはこの中にもありますけれども食育という部分も非常に大きな項目にもなってくる、4育だと思っています。そういった言葉も含まれていますので、ある意味こういった実現方策に裏付けられた部分をこれからは具体的に展開しなければいけない部分、これは委員会というよりもむしろ教育現場のほうで先生方の力にお願いする部分が大きい部分があります。そういったことでは教育委員会がより教育現場と連携を取って、ぜひこの教育大綱、あるいは大綱を実現するための施策に即する具体的な展開をこれから期待するところであります。

様々ご意見もいただきました。先ほど来教育長からもありましたように本当に事務局でも当初私の考えもお話して、ちょっとこの辺の表現はいかななものかというようなこともお話した中で今回（案）として皆さんにお示ししております。私も内容的には非常に整ってきたなという思いがいたします。当然、今後の社会状況、社会動向の変化によっては新たな項目も入るかもしれません。大綱はそのままにしても、実現方策の中で、ここはどうなんだろうという修正も当然あっていいと思うのです。これは先行きが今の状況下ではなかなか見えませんから、そういった場もぜひまた皆さんからご意見があれば総合教育会議の中で議論を進めていきたいと思っています。

それでは、皆さんのご意見等も踏まえてこの教育大綱（案）についてはこの内容で了承いただけるということでよろしいでしょうか。

<はいの声>

（木村町長）

ありがとうございます。

それでは次に協議事項2点目でございます。第2次寒川町教育振興基本計画（案）について入りたいと思います。

現行の基本計画につきましては令和2年度末で計画期間満了となります。現在もうすでに令和3年度に入っておりますけれども。様々な状況下で若干、策定、決定が遅れております。令和3年度から8年間を計画期間とした第2次寒川町教育振興基本計画を策定中ではありますが、当該計画につきましては現在協議を行った大綱の具体案、具体編としての位置づけであります。この会議にお

いてその内容について協議してまいりたいと思いますので、まずは事務担当より説明をお願いしたいと思います。

(教育政策課長)

はい。それでは続いて第2次寒川町教育振興基本計画の(案)という資料をご覧ください。まず1ページをご覧ください。はじめにということで、ここの部分ではこれまでの計画を述べるほか、段落でいうと第4段落目の後段になりますけれども、先ほどご議論いただきました町の教育大綱の改定に関する記述を追記しております。

続いて2ページになりますけれども、2ページでは(1)で計画策定の趣旨を述べるとともに、(2)では計画の位置づけとして寒川町総合計画2040や、寒川町教育大綱との整合を図っている旨を述べております。また(3)の計画期間といたしましては3ページ上段の図にもございますとおり、令和3年度から10年度の8年間をこの基本計画の期間といたしまして、これを受けた実施計画の期間につきましては8年間を4年ごとの前期と後期に分けまして、進行管理といたしましては(4)に記載のとおりPDCAサイクルを回していくといたしております。

続いて4ページ、5ページをご覧ください。こちら基本計画全体についての記述となりますけれども、従来からの計画に加えまして4ページの最終段落から5ページにかけての部分になりますけれども、保護者が第一義的責任を有する家庭教育を取り巻く課題等について追記をしております。

続いて6ページをご覧ください。基本理念でございますけれども、基本理念につきましては、学びと遊びの充実により豊かな自己を将来にわたって育てること、すなわち自立といった部分と、人と人のつながりを育むこと、すなわち共生の双方が同時に高められることをよく生きると捉えておりまして、この根本の部分については第2次計画においても継承してまいりたいと考えております。

こうした中、中段以降の図につきまして、家庭教育、学校教育、社会教育、地域といった4要素についての変更はございませんが、第1次計画においてはこの関係性が地域を通じて家庭教育、学校教育、社会教育が結ばれていくといった関係性での図でありましたので、今回はその点についての修正を図っております。具体的には、家庭教育が全ての教育の出発点であるということから、これを中央に据えまして、学校教育と社会教育がそれぞれの責務を果たしながら家庭教育とも連携、協力を図っていくとともに、これらを地域全体で支えていくという形に修正しています。そうした取組の結果といたしまして、図の矢印の下の部分になりますけれども、人づくり、絆づくり、まちづくりにつなげていくことを目指してまいりたいと考えておりますけれども、今回、一番右端のまちづくりの部分についてでございますが、従前の計画ですと、ここの部分がこれまでは環境づくりとしておったところなんですけれども、いろいろな各施策の成果としての内容ではないということからこの部分をまちづく

りといった、成果指標的な形に修正をしております。そして、そこでの支える基盤ということで、最下段ですね、学びと遊びを支援する学習機会、支援体制、施設設備の充実という行政として取り組むべき内容を記載するという形にしております。

続いて7ページでございますけれども、こちら8年後の目指す姿ということで基本目標としております。また8ページではそれを受けた8つの柱ということで基本方針を記載しておりますけれども、それぞれ内容が学校教育と社会教育に分かれておりますので、まず学校教育のほうから順次ご説明を申し上げます。

なお、9ページにも(4)ということで計画の体系図を掲載しておりますので併せてご覧いただければと存じます。

それでは学校教育分野についての説明をいたします。

(学校教育課長)

それでは学校教育分野に関しまして説明をさせていただきます。

7ページに戻っていただいて基本目標のところから説明をさせていただきますと思います。ただ、これから全ての文字のことに关しまして説明をしていきますと非常に量が多いので、それぞれ大事な点、要約した部分について説明をさせていただきますと思います。

では、まず基本目標ですが、学校教育においてこの基本理念を実現するために8年後の目指す子どもたちの姿として、先ほどから話に出ておりますように不易と流行といった2つの側面から基本目標を定めました。1つ目としては自分の力で未来を切り開いていけるよう、知、徳、体の調和のとれた生きる力を身につけた子どもたちの姿を目指していきます。小中学校の発達段階においては人間としての基礎をしっかりと育むことが大切であり、この部分はまさに不易にあたるところです。

2つ目としては不易と流行における流行の部分にあたります。流行とは今求められている教育であり、時代に応じて目指すべきこととして、予測困難な時代にあって情報技術の急速な進展に対応するとともに、多様化する世界を前に互いの文化的違いや価値を受け入れ、尊重し、新たな関係性を創造することを目指す、多文化共生社会の担い手となってグローバル社会を生き抜く子どもたちの姿を目標といたしました。

続きまして8ページをご覧ください。これらの不易と流行を踏まえた基本目標を実現するために学校教育として5つの柱を立てました。不易の側面からは1、確かな学力を身につけた児童生徒の育成、2、豊かな情操と道徳心を備えた児童生徒の育成、3、心身ともに健やかな児童生徒の育成の3点でございます。また流行の側面からは、4、外国語による積極的コミュニケーション能力を身につけた児童生徒の育成、5、情報活用能力等を身につけた児童生徒の育成の2点でございます。これらの5つの点の実現に向けて取り組むことを基本方針といたします。またこれらを支える土台といたしまして、学校教育の図の

下に示しているとおりでございます。

それではそれぞれの基本方針についてご説明をいたします。10ページからの前期実施計画のところをご覧ください。まず基本方針1、確かな学力を身につけた児童生徒の育成についてです。第1次の計画の部分、後期実施計画の期間において寒川町の児童生徒は豊かな自然環境の中、大変のびのびと思いやりのある人に成長を遂げてまいりました。また、課題はあるものの基礎学力についても一定の改善が図られている状況にあります。しかし、思考力、判断力、表現力といった活用の力の部分に課題が見られます。今後も継続して主体的、対話的で深い学びの視点によって授業改善の取組を進め、学習の質を一層高めていきます。

基本方針の2、豊かな情操と道徳心を備えた児童生徒の育成についてです。確かな学力に加え、子どもたちの健やかな成長のためには豊かな心を育むことが不可欠です。いじめや不登校などの児童生徒指導上の諸問題について、未然防止と早期発見、早期対応に学校を上げて取り組むとともに、多様な体験活動や学校行事、特別の教科、道徳を要として学校の教育活動全体を通じて一人ひとりが自らの課題を乗り越え、他者と協働して成し遂げる力を今後も育んでいきます。

11ページにあります基本方針3、心身共に健やかな児童生徒の育成についてです。これからの人生を生きる子どもたちにとって健やかな心身の育成を図ることは極めて重要です。子どもたちの心身の調和的発達を図るため、運動を通して体力を養うとともに、食育の推進を通して望ましい食習慣を身につけるなど、健康的な生活習慣の形成を図ってまいります。

続いて基本方針4、外国語による積極的コミュニケーション能力を身につけた児童生徒の育成についてです。外国語によるコミュニケーション能力が一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされます。新学習指導要領により、小学校外国語教育の早期化、教科化など、外国語教育の重要性が増すとともに小学校の外国語に関する授業時数も増加しています。各校1名の外国語指導者F L Tを配置し、外国語の授業の質の向上に加えて、共に生活を送る中で、外国人と実際に話す機会や生活体験を確保し、外国語によるコミュニケーション能力を育んでいきます。

続きまして12ページに進みまして、基本方針5、情報活用能力を身につけた児童生徒の育成についてです。新学習指導要領では情報活用能力が学習の基盤となる資質、能力の1つとして位置づけられました。学力向上に向けても育成すべき重要な資質、能力と言えます。また、スマートフォンやSNSの普及に伴い、トラブルも増加しており、情報モラルを身につけることも必須であります。令和2年度に全小中学校にG I G Aスクール構想の実現に向けてI C T環境の整備を進めました。今後はI C T機器を効果的に活用できるよう、教職員の研修体制を充実させながら、その促進を図っていききたいと考えております。以上、学校教育に関わる部分の説明とさせていただきます。

(教育政策課長)

それでは引き続いて社会教育の関係でございます。恐れ入りますけれどもページは7ページの基本目標にお戻りいただきたいと思います。社会教育に係る基本目標、8年後の目指す姿でございますけれども、人生100年時代の到来ですとか、社会経済環境の急激かつ不透明な変化等を踏まえまして、学びを通じた住民同士のつながりですとか、自らも当事者としてよりよい地域づくりに自発的に取り組むことが重要であるということから、町民が地域で学び、その成果が人づくり、町づくりに生かされているとしております。

8ページをご覧ください。8ページの基本方針につきましては、基本目標を実現するために3つの柱を社会教育では立てております。それとともにこれらを支える土台としては図の最下段に示しているとおりでございます。

それでは、それぞれの基本方針についてご説明申し上げます。まず基本方針の6番になりますけれども、社会の持続的発展のための学びの推進につきましては、町民自らの生涯にわたる学びを通じて行動変容等を促しまして、町民相互のつながりを深めて地域の持続的発展を支える取組を進めてまいりたいと考えております。

それから基本方針の7番でございますが、多様化する家庭環境に対して地域全体での家庭教育の支援につきましては、家庭教育は子どもが安心できる生活環境づくりが大切でありまして、子どもの健やかな成長を地域全体で支えてまいりたいと考えております。

基本方針8つ目ですけれども、地域の伝統、文化財を保護し、郷土への愛着を育む活動の実施につきましては、地域の伝統や文化財を通じまして、郷土への愛着を育てまいりたいと考えております。

それではページ10ページから13ページにかけては、それぞれその基本方針について、先ほど学校教育のほうからもご説明ありましたけれども、より詳細な内容を記載させていただいております。これを受けた今後4年間の取組内容であります前期実施計画につきましては14ページから20ページにかけて記載をしております。第1次計画についての総括を踏まえまして21ページから23ページにかけて今後4年間の重点施策を記載しておりまして、この内容については町総合計画2040に記載の事業にもなっております。

それから24ページから27ページにかけてはその他の施策を記載しておりまして、28ページ、29ページについてはそれに関連する取組を記載しております。

事務局からのご説明については以上となります。よろしくお願いいたします。

(木村町長)

ページごとに細かく説明は時間の関係で省かせていただきましたけれども、たった今、担当より説明したところであります。この計画、以前からよく寒川町だけではないのかもしれませんが、計画をつくることの意味目的になっている

部分もあって、そこで何となく計画をつくりました、じゃあその先どうなるのというのがよく批判されることもございました。そういったことから議会からもよくお話が出ますけれども、この第2次寒川町教育振興基本計画は教育大綱の改訂版の具体編としての位置づけがあるのは先ほどお話したとおりであります。しっかりとその目標に対する成果を出していただきたい。この目標指標の設定もございます。ただ目標指標が甘い指標の内容かなというのはちょっと気になる部分でもあります。それとやはり進行状況の確認。毎年、前期が終わって4年間経って振り返るのではなくて、毎年どうなのかという確認が必要だと思います。毎年の目標指標が出ていますからその指標設定にあたって現状はどうかという部分、そういう振り返りもぜひしていただきたいと思います。特にグローバル教育推進事業については文字どおり教育元年としての意味、柱となるような事業でもあります。非常に期待値も高いわけです。町民の皆様からも大変関心をもって見てられますので、そういった事業の内容については期待をして見守っていききたいなと思っております。

それでは担当より説明ございましたけれども、今の説明の内容についてご意見、お考え等がございましたらご発言をお願いしたいと思います。

それでは、小川委員から。

(小川委員)

よく大綱に対応して、また2040の町の計画に照らし合わせてということなのですが、学校に留まらずいろいろなところに派生していると思うのですが、6ページに図がありますように、学校教育と社会教育の真ん中に家庭教育というものが入っています。学校教育と社会教育というかなり大きい捉え方、大勢の人が取り組むべきことで、取り組んでいて、あまり間違えたりとか偏ったりということは起こらないと思うのですが、こと家庭教育に関しましては本当にそれぞれの家庭で違います。特に昔に比べると今は1つの家庭が大変狭い世界で出来上がっておりますから、家庭教育はこうあるべきというような観点も必要なのですが、なかなか理想どおりにいかないほうが多いのかなと思います。大変デリケートな問題なので私たち民生委員としても本当にどう具体的に対応するかということが何もできない状態の分野なので、学校、社会、そして全体として地域でいろいろな機関とつながる必要があると思います。学校とか社会に関してはいろいろ言えるのですが、こと家庭に関してはなかなかできませんので、そういったところで、ありきというふうにあまりしないで、柔らかに包み込むといったようなそんなニュアンスも必要かなと思います。そのほうが家庭を支えている保護者の方に対するプレッシャーが少なくなるかなと思います。

家庭教育というのはお子さんを見て何か困ってないかなということから分かってくることだと思いますので、学校、社会というものが気を付けて心配りするということが大事なのではないかなと思います。この図は中に家庭を取り込んでいますので、そういった意味でもよくできているかなとは思っています。

ちょうど昨日か、今日かな。テレビで尾木ママが言っていたのですが、A I というのがこれからどんどん発達していったって、A I というのは人工知能ですから分からないことがあれば検索すればすぐに調べられるし、答えが出てきます。でも、そういうのはすぐに出てくる答えなので、これから本当に大事なものはH I だというふうに尾木ママが言っていました。そのH I というのが人間知能とおっしゃっていましたね。その通りだなと思ってすごく深く心にじっくり来ました。やはりあふれ出た情報を活用する、多様性に向けて活用する人間力のある人間を寒川では育てるよというそういう意気込みというのをこの不易と流行の部分ですね、7 ページに表れているのではないかなというふうに思います。

4 年ごとというよりも、先ほど町長がおっしゃったように1 年1 年振り返ることが必要なのだらうなと思っております。以上です。

(木村町長)

ありがとうございます。布谷委員よろしいでしょうか。

(布谷委員)

今、町長さんおっしゃったように大綱とかそれから基本計画、すごく練られて素晴らしいものが出来上がったと思うのですが、これをいかに学校現場や町民に浸透させていくのかがこれからの課題かなと思います。今伺っていて、まず分かりやすく、そして心の中にすんと落ちるような形を、つくっていただけたらなと考えていたところです。そういった部分を工夫する必要があると思います。本音を言うと、例えばこういう資料が学校で配られましたと。なんかふわっとしていて。

(木村町長)

ちょっと棚にしまってなど。

(布谷委員)

そうです。棚にしまっていざというときには出してくるのですが、すんと心の中にじっくり落ちなかった部分を、いかに変えていくのがというのがこれから考えどこかなというふうに思います。

(木村町長)

ありがとうございます。大関委員。

(大関委員)

これ「はじめに」から始まって、最初こう読んでいくとすごく入りやすいんですよ。とても入りやすく読みやすい状況になっています。そしてそのあとに、じゃあこれどうなのよということ全て書いてあって素晴らしい内容になっ

ていると思います。ただ本当今言われていたように自分もどちらかというところ、そのあとどうなのかというところ、全部読み切れるのかなというところが多々あり、だけどこれを外したらこの意味がつかないとかいうこともたくさんあるので、これぐらいのボリュームになってしまうのだろうなというふうに思っております。

ただ、さっき言っていたように、行政的なところで言うと、つくったことで満足してしまうところも多々あるので、そこをどう実現していくかというのがこれからの課題なのかなと思いながら聞いておりました。内容的にはこれで素晴らしいと思っております。以上です。

(木村町長)

ありがとうございます。大川委員。

(大川委員)

大綱を具体化するためのものがこの教育基本計画だと思います。その柱になる部分がちょうどこの4番と5番ですかね、グローバル教育とICTの活用能力、この2つはどうしてもセットで行われないと効果が出ないのではないかなと思います。前もそんな感覚、自分でも持っていましたが、皆さんもそういうものをちゃんとセットで用意してくださっていたのはすごくありがたいなと思っています。まずグローバルに関して言うと寒川はAETの先生方が、英語の担任の先生だとか一緒に英語の学習をしてきました。非常にいい雰囲気で作ってきたと思います。今度はもっとそれを発展させてFLTになって1校1名になります。そのことによって子どもたちが外国の人と接する機会が増えていい体験が、外国の文化も一緒に学んでいける。そういうものをやっていく、すごくいい、恵まれた条件が今の寒川にはできているのではないかなと思います。ぜひ、楽しく英語やそして海外の文化も学んでいってほしいなと思います。

もう一つ、2018年の全国学力学習状況調査、これ中学生版なのですが、即興で応じることに慣れてない生徒が多いということで、英語で4領域の中で話すことが一番苦手だったんですね。これは寒川だけじゃなくて、全国的にですね。聞くだとか、書くだとかいうものはかなりいいパーセンテージで通過していますが、話すことになると3割ぐらいしかできていない。これは即興で応じることに慣れていない生徒も多いというところなのですが、そのためにはやはり外国の人と英語を使う、担任の先生あるいは担当の先生がセットになってないとこれまたいけないと思うのです。ですから、そういう意味でいい人の配置がされているので、これからを期待したいなと思っています。

あと、もう一つのセットはICTの活用能力を高めないといけないのですが、2018年だったかな、PISAの調査で日本は15歳の子たちの調査の中でOECD加盟国37カ国中、日本が最下位でした。ICTの機械を使っての授業をおこなっているか、いう内容だったと思うのですが。非常に日本は下がっている、下のところでした。今度GIGAスクール構想が始まりますから、

非常にそういう意味でも期待をしているところです。話を聞いているといい機器を使って指導主事さんたちも実際に学校に行って指導してくださって、いい流れができつつあるなと思うのですが、問題はこれからですね。町長さんには申し訳ないのですが、お金がかかってくる。これからいいソフトだとか、周辺機器だとか、そういうものが出てくると思います。そういうものをこれから補充していかないとこれまた大変になってくるのではないかなと思っています。そういう意味で予算的なご支援もぜひお願いしたいなと思っています。

これさえ抜けていけばこの流行の部分、不易の部分はまたあとであろうかと思うのですが、この流行の部分では寒川の子たちはかなりいい力を付けているのではないかなととても期待しています。以上です。

(木村町長)

ありがとうございます。教育長いかがでしょう。

(大澤教育長)

はい。今、大川委員さんから予算というお話があったのですが、これまで町長は子どもたちの教育については本当に力を入れています。ですから必要なことについては可能な限り対応するという考えですので、教育委員会としても慎重にその辺は進めていきたいと考えているところです。

議会答弁にならないように簡単にお話します。教育振興基本計画は教育委員会の組織事務分掌に合わせた内容とするため昨年度以来の町の組織再編作業を受けて、策定作業を進めなければなりませんでした。本来であれば令和3年度当初に策定できればよかったのですが、策定期間が後ろにずれてしまいました。しかしながら教育委員会事務局を中心としたプロジェクトチームが策定作業をなかなか進められず、限られた時間の中で日々の業務を抱えながらも、何度も検討を重ね年度当初にこの（案）という段階まで作業を進めることができました。

今回の改定では新たな町総合計画の策定の際に各課の施策を絞り込むことにより、その整合性を図って基本計画（案）でもまさに重点施策といえるように絞り込まれ、その他の施策を主な施策として整理したことは良いと思います。基本目標、基本方針の実現をするためには具体的に様々な施策が必要となりますが、前期の4年間で特に進めていく施策が分かりやすくなっています。今後施策を実行していく上でも、また点検、評価する上でも特に何に力を入れなければならないのか、そして何を評価し改善を図っていかなければならないのか明確になってくると思います。

教育振興基本計画は教育大綱を具現化するものです。これは皆様からも言われていることです。教育大綱を受けて教育委員会が中心に先ほど布谷委員からも発言がありましたが、特に学校ですね、やはり学校のほうにはこの教育振興基本計画の内容についてしっかりと理解をするようにこちらも努めていく必要があると思っています。また地域などと一体となって各施策、取組を実行

に移すとともに年度ごとに点検、評価し改善を図っていくことが大切になってくると考えております。以上です。

(木村町長)

教育長、また各委員からもご意見をいただきまして、それぞれ皆さんからの異なる部分の意見もございましたけれども、いずれにしてもこのコロナという事態発生に伴って策定作業が非常に遅れてきたと。実際この振興基本計画の策定についてはたしか昨年の5月に内部の会議ですけれども、全庁会議で策定についてというような話も聞きました。それから丸々1年たちました。先ほど冒頭お話したようにすでに令和3年度も進んでおります。コロナ禍で作業が遅れてしまったというか、あまりそういう理由にはなりにくい部分も、内部の検討部分ですから、当然この成案というか計画の（案）が取れるには、今後の確定に至るスケジュールはどうなっているか事務局のほうでお願いできますか。

(教育政策課長)

こののち議会のほうにも6月の議会の中でパブリックコメントを行ってきたいということは内容を含めて改めてご報告をさせていただきまして、パブリックコメントについては7月に一月かけて行っていきたいと思っております。パブリックコメントの結果が出ましたら、いただいたご意見を基に修正等図るべきところがあればきちんと修正を図りまして、成案とする終わりの時期は上半期終了までには（案）が取れるように計画として確定していきたいというふうに考えております。以上になります。

(木村町長)

そうすると上半期、9月中になってしまうと。

(教育政策課長)

そうですね。

(木村町長)

いずれにしても先ほど来、話がありますけれども今、非常に行政の活動というか、行政の運営について町民の方、非常に関心をもって見てるというか、動きを注意深く見つめられてる方もいらっしゃると思います。そういった部分では先ほどもありましたけれども、この教育振興基本計画、これ専門書ではありません。町の小中学校の教育をどう進めていくかという、かなりこれは一般の町民も非常に関心を持たれると思います。逆にすでに子どもは卒業してしまったけれどもという部分でまた新しく子を持つ親御さんになるような方についても大変関心を持っておられますし、今、寒川も新しく転入される方も本当に増加しております。そういう状況下にありますので、先ほど冒頭お話したようにつくって終わりじゃなくて、つくった経緯、そして毎年の目標に対するチェック、こ

ういったものも常に行いながら、そしてやはりパブリックコメントで様々なご意見が出るのを期待しているところなのですが、それはより内容も非常に町民の方にも分かりやすさ、何がここで欠けているのか、何がいいのか、あるいは何に問題があるのか、そういったこともご意見いただけたらと思いますので、議会に説明、報告する部分もありますけれども、ぜひそういう経過の中で、ただ、あまり先延ばししないで。これ資料の中では、多分これ令和3年3月ぐらいの作成なのか分かりませんが、もうすでにパブリックコメントも終わってと書いてありますけれども、まだ終わっていませんから。これからですから、そういう部分もあるので日付の調整もありますけれども、子どものことに関することは非常に関心が皆さんお持ちです。特に年配であれば孫のことだからというので、貴重なご意見もいただきますので、広くそういう意見をうまく取り入れていただきたいと思います。今日委員の皆さんからもご意見もいただきました。そういったものも担当で十分控えておりますので、そういう内容を踏まえてより実効性の高いというか、誰もが教育振興基本計画という堅い言葉、計画名ですけれども、内容はもっと柔らかいんだというような取組、あるいは子どもの成長記録が見れるなどそういった期待値がもてるような計画にぜひ策定に至ればなと思っています。

今日は皆さんにご意見伺うところまでということになります。今日のご意見伺った中で中身を修正等があれば直しが含まれて、7月のパブコメでは議会報告等も踏まえて今後作業を進めてまいりますので、よろしくお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

<はいの声>

4 その他

(木村町長)

それでは次第の最後になりますけれども、4点目のその他でございます。皆様方のほうから何かございましたらご発言をいただければと思いますが、よろしいでしょうか。

はい、どうぞ。

(布谷委員)

今の町長さんのいろいろなお話を聞いていて、やはりみんながコロナ禍で何となくどんよりしてしまう。元気が出なくなっていて落ち込んでいるところですが、寒川町は外国人指導者を1校1名配置している、すごく頑張っているところを、全部でき終わる前、待たずに町民にいろいろな形でアピールすると町民の方も元気が出ると思いますね。

(木村町長)

ありがとうございます。ちなみに6月に発行される広報、これは全世帯、あるいは全事業所に配りますけれども、その中ではF L Tのそれぞれ紹介も出ております。町が何を教育元年として取り組むのだということも限られた紙面のスペースですけれども載せておりますので、多分それに対するいろいろ問い合わせも、お声もいただけたと思います。ちょっとまだゲラしか見ていませんが、個々のF L Tの顔が見づらいかと気になりましたが、8人の方、4人の方は従来からいらっしゃいますが、いずれ私も面会というかご挨拶に来られた方にお会いできると思います。F L Tには地域にもっと出向いていただいて、地域の中で学区だけじゃなくて町内いろんな町のイベント、今の状況下できませんが、開催ができるような状況になれば、非常に町民の方と接する部分、密になるという意味じゃありません。顔合わせじゃないですけどね、そういった部分で町歩きをぜひしてくださいというお願いもしてあります。またいろんな場面で紹介するようなこともできれば私からも、あるいは教育長からしてもらえばなと思っています。ありがとうございます。

いろいろ新しい取組も、広報だけだとなかなか情報が伝わりにくい部分ありますが、町のホームページも様々柔軟に今動いており、広報戦略というような部分で対応していますので、よろしく願いしたいと思います。

その他ございますか。

(小川委員)

今F L Tのことで、こういうものを全て一般の方が目を通すってことは無いと思うのです。こうして学校にF L Tを常駐させますよって、それがものすごいメッセージに、町の姿勢、町の在り方、教育に対する考え方、多様性に関してですとか、そういうことをいかにしっかり考えているかという一番強いメッセージとして伝わると思います。以上です。

(木村町長)

ありがとうございます。ほかにございますか。よろしいですか。

それではほかにご意見等もないようですので本日の会議を終了したいと思います。よろしいでしょうか。

<はいの声>

5 閉会

(木村町長)

本当にお忙しい中、また定例会から引き続きお疲れの中、ご参加ありがとうございました。それでは今年度の第1回となりました寒川町総合教育会議、これを持って終了といたします。大変ありがとうございました。

—— 了 ——